

[主催] 同志社大学 一神教学際研究センター(CISMOR)
[共催] 同志社大学 神学部・神学研究科

CISMOR 公開講演会

真の平和を実現していくために

ー コプトが伝える聖家族のエジプト避難の旅と

イスラームの聖遷（ヒジュラ）を通して考えるー

【講師】

久山 宗彦

(カイロ大学文学部日本語日本文学科 客員教授)

【司会】

小原 克博

(同志社大学神学部・神学研究科 教授、CISMOR センター長)

2013 年 6 月 8 日(土) 13 : 00 – 15 : 00

同志社大学 今出川キャンパス

神学館 3 階 礼拝堂

- 入場無料・事前申込不要
- お問い合わせ先

同志社大学 一神教学際研究センター(CISMOR)

TEL: 075-251-3972

E-mail: info@cismor.jp

HP: <http://www.cismor.jp/>

【プログラム】

- | | | |
|------------|-------------------|---------------------------|
| 1) 挨拶/講師紹介 | 13 : 00 – 13 : 05 | 小原 克博 (CISMOR センター長) |
| 2) 講 演 | 13 : 05 – 14 : 30 | 久山 宗彦
「真の平和を実現していくために」 |
| 3) コメント | 14 : 30 – 14 : 40 | 石合 力 (朝日新聞 国際報道部長) |
| 4) 質疑応答 | 14 : 40 – 15 : 00 | |

【講師紹介】

久山 宗彦 (くやま むねひこ) カイロ大学文学部日本語日本文学科客員教授

1939 年生まれ。東北大学大学院修了 (文学修士)、名誉博士 (文化学)。法政大学教授を経て、星美学園短期大学学長、カリタス女子短期大学学長 (2002～2012 年) を歴任、現カイロ大学文学部日本学科客員教授。専攻は宗教学。

◇著書

『イスラム世界とコプト文化』(コルベ出版社、1982 年)

『神の文化と和の文化』(北樹出版、1985 年)

『ナイル河畔の聖家族』(フットワーク出版、1991 年)

『イスラム世界の日常論理』(フットワーク出版、1991 年)

『コーランと聖書の対話』(講談社・現代新書、1993 年)

『イスラム教徒とキリスト教徒の対話』(ムハンマド・エッザト氏との共著/北樹出版、2001 年)

『エジプト』(監修/ポプラ社、2009 年)

他にアレクサンドリアのクレメンスについての論文等多数。

「真の平和を実現していくために」

—コプトが伝える聖家族のエジプト避難の旅とイスラームの聖遷（ヒジュラ）を通して考える—

久山 宗彦

（カイロ大学文学部日本語日本文学科 客員教授）

* 革命後のエジプト・アラブ世界の未来を切り開いていくために必要と見做されている日本研究の場、カイロ大学文学部日本語日本文学科

- 1 現在、世界で最も深刻な問題は、Wahhabism と福音派キリスト教原理主義の政治的色彩の濃い敵対
- 2 相手から懲らしめられる側の精神的拠りは旧約聖書の申命記「あなたの目は、（その人に）あわれみをかけてはいけない。生命に生命を、目には目を、歯には歯を、手には手を、足には足を」や出エジプト記
- 3 新約聖書には復讐の教えは存在しない。寧ろ、「汝の敵を愛せよ、許せよ」を言葉と行動で示されたのがイエス
- 4 さて、聖家族のエジプト「避難」の旅の理由とは？また、何故エジプトに「避難」なされたのか？
- 5 悪玉と見做した相手をやっつけることにより平和がやってくると信じている為政者との比較
- 6 ところで、クルアーンは旧約・新約聖書のアラビア的陳述である。「我らはこれをアラビア語のクルアーンにしておいた。お前たちにもわかるように。その内容はすべて我々の手元にある啓典の母体に載っているいと高いとも賢きもの。」（光まばゆい部屋飾りの章 43-3~49）
「次に、我らマルヤム（聖母マリア）の子（イエス）とその母親（マリア）とを神兆となし、二人の安全のために隠れた場として平地と泉水のある丘を与えた。」（信仰者の章 23-50）
- 7 ムハンマドらへの激しい迫害に対する状況下で実行された「聖遷」（ヒジュラ）とは
- 8 ジハードの一つの重要な形としての平和をつくり出す「聖遷」
- 9 ジハードとしての「聖遷」についてのクルアーン「われとわが身に害なしているところ（具体的にはムハンマドと共にマッカを去ってマディーナに移住することを肯せず、不信の徒の間に安閑として暮らすことを好んだ人々を指している）を天使らに召された（死んだ）人たち。天使らがこれに＜汝らどのような状態であったのか＞とお訊ねになると答えて言う、＜わしらは地上では、ひどくいためつけられておりました。＞すると（天使らは）＜だがアッラーの大地はあれほど広いものを、どこへでも居を移せばよかったではないか＞と言う。このような徒の行きつく先は、ジャハンナム（ゲヘナ地獄）。まことに情けない行き先きよ。」（女の章 4~97）

[講演レジュメ]

- 1 0 聖家族のエジプト「避難」の旅と「聖遷」を通して読み取れる今日の重要課題
- イ 悪行・不正に対して抵抗（敵対）する
 - ロ 悪行・不正に対して受動的に抵抗（敵対）する
 - ハ 悪行・不正に対して反一抵抗（敵対）という能動的態度をとる
- 1 1 聖家族のエジプト「避難」の旅から学ぶ新旧コプト法王、そしてコプトの人たちの "平和的、能動的な反一抵抗（敵対）"という態度は、相手を懲らしめたいという自らの欲望に対して、精神的武器をもって抵抗する戦い（＝精神的避難）である

<次回講演会>

第 7 回ユダヤ学会議

中世ユダヤ文化の創造力：キリスト教思想・イスラーム思想との関係

Jewish Cultural Creativity in Medieval Times and its Relations With Christian and Islam Traditions of Thought

2013 年 6 月 29 日(土)～30 日(日)

同志社大学今出川キャンパス 神学館3階礼拝堂

6 月 29 日(土) 13:00－15:00

「Medieval Jewish Cultural Creativity in Response to Persecution
(迫害への応答としての中世ユダヤ文化)」

講師：マルク・サパーステイン教授、ジョージ・ワシントン大学

6 月 30 日(日) 13:30－15:30

「Maimonides' Monotheism: Between the Bible and Aristotle
(マイモニデスの一神教：聖書とアリストテレスの間で)」

講師：ゼエヴ・ハーヴィー教授、ヘブライ大学

英語講演・逐次通訳あり、入場無料・事前申込不要